

【茨城県立多賀高等学校グランドデザイン】

「学校教育目標」と「令和6年度重点目標」に向けて

○『最善を尽くして颯爽たれ』の校訓のもと、未来の社会に希望を持ち、前向きに社会を生きることができる人材を育成する。
○「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を備え、「自分で考え、判断し、決定し、行動できる力」を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。

豊かな人間性

○知的好奇心や向上心を持って自律的に学習課題に取り組む。
（「知」の育成）
○他者と協働するために必要な規範意識・共感性・受容力を持った心を育む。（「徳」の育成）

健康・体力

○体育的活動、学校行事、部活動を通して健やかな心と体を育む。
（「体」の育成）。
○教育課程を通して、健康的な生活を送るために必要な態度と心を育む。（「知」の育成）

資質・能力の育成

何ができるようになるか

○学校教育の基本

○希望する進路に向けて、自己を客観的に見つめ、成長を目指した努力を継続できる力を身につける。
○周りの人と協働し、コミュニケーションを取りながら、課題解決を目指すようになる。
○部活動やホームルームで自分の果たすべき役割を自覚し、主体的に行動することができる。

何が身に付いたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

○希望する進路に向けて、自己を客観的に見つめ、情報や技術等を活用し新たな価値を生み出す力。
○周りの人と協働し、コミュニケーションを取りながら、自ら考え、判断し、決定し、行動できる力。
○部活動やホームルームで他者の多様性を受け入れ、対話を通して対立やジレンマを解決する力。

生徒の実態

○部活動や授業に明るく熱心に取り組む。
○与えられた課題に取り組む姿勢は良好であるが、自ら課題を考える力が乏しい。
○社会に対する関心が低く、自己の将来を実感として持ちうる生徒が少ない。

生徒の発達を どのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への教育環境の整備。
○カウンセリング体制の充実。（SC・SSWとの連携）
○配慮を必要とする生徒への理解を深めるための研修会の実施および個に応じたきめ細やかな指導。

目指す生徒の像

○将来を見据えて目標を見出し、自己の成長に向けて主体的に課題を考え、粘り強く取り組むことができる生徒。
○心身ともに明るく健康であり、地域および社会へ貢献するためのコミュニケーション能力を備えた生徒。
○持続可能な社会の当事者として成長するために、「自律」「対話」「創造」の3つの行動特性を身につけた生徒。

何を学ぶか ○教育課程の編成

○多様な進路、将来に対応できる、目的をふまえた各教科の内容を学ぶ。
（確かな学力の育成＝中学既習内容および高校で学ぶ基本的内容の定着）
○自己実現のための思考力・判断力・表現力をともなった課題解決の方法を学ぶ。（言語活動の充実による主体的な授業の実施）
○職業観・勤労観・人生観を学ぶ。（探究学習の活用）

どのように学ぶか ○教育課程の実施

○基礎学力の定着を目指すために、Classi等の学習教材を活用し学習習慣を定着させるとともに、知識の理解度を各種テストやポートフォリオ等で確認する。
○課題解決能力や自己表現力を高めるために、基礎学力を活用し、自らが関心を持つ分野の課題を設定し、学習したことをポスター発表や発表する機会を場面ごとに設定し、プレゼンテーションの技術を身に着ける。
○将来の目標設定や自己肯定感を高めるために、社会人OBインタビュー・模擬講義・個人探究活動などの進路につながる探究学習を実施する。（多賀高チャレンジ）

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

○地域における社会人（卒業生など）からの講話や、大学等と連携した学校見学会への参加、各分野による模擬授業等の実施。
○ICT 機器の充実（タブレット端末およびオンラインによる学習環境の整備）と校内 Wi-Fi 環境の整備（普通教室以外の全ての教室（全館）も整備）。ICT 機器活用についての職員への研修の充実。
○授業、行事における積極的な ICT 機器の活用。
○主体的で教科横断的な探究活動の実施に向けての校外との連携および校内研修。
○授業公開・公開講座・各種面談等を通して相互理解を深め、生徒・教員・保護者が学校教育目標に向けてワンチームになる。（チーム多賀）

安心・安全を守る

○危機管理に関わる教育内容の充実
（防災教育・情報モラル教育・自転車指導・新しい生活様式）
○生徒に対する心のケアの充実
（ラポールの構築・教育相談・いじめ対策）
○教育環境の整備・充実

開かれた学校作り

○学校の様子の発信
（HP の拡充・PTA 広報誌・スクールガイド・中学生への説明）
○保護者との関わり（保護者面談・PTA 活動・授業公開）
○地域とのつながり
（学校評議委員会・探究学習・地元の大学との連携・地域行事への参加）